グローバル通信

2017/03/14

特集　ボルネオ「Study Tour」

NO.43

報告が遅くなりましたが、2016年12月23～30日の7泊8日で開催された第2回中高生ボルネオスタディツアーに海城の生徒7名、教員1名で参加してきました。首都圏の高校生20名が集まり、マレーシア・サバ州にて、現地の学生との交流、熱帯雨林の生物多様性の体感、熱帯雨林減少の実情について学んできました。ただ、学ぶだけでなくツアー後に自分にできることは何かを考え、これからの行動に期待しています。第3回のツアーの申し込みもそろそろ始まります。興味がある方は生物科関口のところまで来てください。

以下、参加者の感想です。

・高2　小島裕成　　今回見た昆虫とボルネオ島の森林保全

僕は今回の渡航するに当たって特に昆虫の観察に重点を置いていました。熱帯雨林だし多種多様な昆虫が見られる、ってことは皆さんもう既知のことだと思うので、特に一種類印象深いクワガタについて。事前にボルネオ島に生息するクワガタは調べていきましたが、現地で十一種類確認したうち一種類見たことがない種類がいました。帰宅後専門家に問い合わせると *Prosopocoilus attenuatus*（アテヌアトゥスノコギリクワガタ）という種類で、大変稀な種であるそうです。その種は、低地に生息しているようで、高地性の種類よりも伐採の影響を受けやすく、低地のほとんどが農園に変わっている今では確認し難いとのことでした。これはボルネオゾウやオランウータンの様な大型動物だけでなく、自分にとって身近なクワガタでも開発の影響で個体数を減らしているのだということに改めて気づかされる出来事でした。現地でお会いした昆虫博士 Dr.Steven は昆虫の魅力を通して森林保全を訴えかけてらっしゃる方の一人で、講義もして下さり色々なことが聞けました。今後、僕も昆虫から派生して森林保全について関わることが出来たらなと思います。

・高1　田淵　麻紘

僕が今回このツアーに参加した理由はたくさんありますが、中でもボルネオならではの食文化に触れてみたかったという気持ちは参加者の誰よりも強かったと思います。その中で1番美味しかったものは竹筒の中にもち米を入れて蒸したもので一見シンプルですが、面白い発想の料理で絶対に食べたいと思っていたものです。パラパラとした食感のインディカ米も炊きたてはすごく美味しい。また、辛い汁物をご飯の上にかけて食べる傾向が強いのが特徴です。（300文字という制限文字数の壁では食レポも難しいです）他にも新鮮なフルーツや変わったゲテモノもあり、僕にとって面白いボルネオスタディツアー、改めボルネオグルメツアーが堪能できました。感謝！

・高1　西角井茅人

このツアーを通して私が知ったことは現地を知ることの大切さである。私はこのツアーに参加するまではボルネオ島の自然破壊、そしてそれと私たちの生活との関わりをほとんど知らなかった。私のクラスメートも「ボルネオってどこ？」、「何のために行くの？」と尋ねてきた。自分の日常の背景を知らずにいたのである。たぶん自分もツアーに参加していなければ知らずに生きていたのではないかと思う。

植林活動を行いました

現地に行ってそこの人たちの話を実際に聞くことで、ボルネオの問題は自分と関係ないものではないと知ることができた。日本でみられる多くのことがその問題とつながっていた。だからこそこのツアーのことやボルネオの自然破壊の問題をもっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

・中3　黒田峻平

私はツアーで「甚大な危機感」を覚えた。

ツアーに行く前から「熱帯雨林がプランテーション開発で減少している」ということは知っていた。それでも、地平線までプランテーションが広がっている光景を見なければ、ここまでの危機感は持たなかっただろう。皆は目に入ってくる植物が全て同じ種類という光景を想像できるだろうか？　私はこの光景を見て大きな衝撃を覚え、ゾッとした。実際に現状を確認し、大きな衝撃を受けたこと。これにより私の危機感、すなわち熱帯雨林の減少に対する危機感は確固たるものになった。何か動かねば、変えねば。私はボルネオで強く思った。熱帯雨林が無いボルネオは嫌だ。オランウータンがいない地球なんて嫌だ。絶対に。

地平線まで広がるアブラヤシプランテーション

保護されたオランウータンを観察している様子

・中3　三内悠吾

ボルネオスタディーツアーで全体を通して一つ感じたのは「日本とボルネオ島の繋がり」である。例えば、市場や道路を歩いていると現地の人に突然「ありがとう！」と声をかけら

れ、コタキナバル空港でも幾つかの日本語案内があり、街にはセブンイレブンがあり、ホームステイ先でご馳走になった時に思わず漏れた「おいしい」という言葉が通じた。それだけではなく、ホームステイ先の親戚が太平洋戦争中に日本兵として来た熊本出身の日本人で、詳しく話を聞くと日本軍はボルネオで相当残虐なことを行っていたそうだ。さらに、食品や洗剤などに用いられる植物油脂を得るための油ヤシのプランテーションや、机などに用いられる木材として熱帯雨林の伐採といった環境破壊は、輸出先である日本などの大量消費が密接にかかわっている。今回の旅で「世界の中の日本」や「アジアの中の日本」という、グローバルな視点で社会問題や環境問題を見て考える、ということを学ぶことができたと思う。

ホストファミリーの皆さんと

参加者の集合写真

海外大学奨学金

海外大学に進学するに当たって大きな障害となっているのが、学費・生活費です。例えばアメリカの場合、公立・私立、４年生・２年生、リベラルアーツなど学校の形態によって様々ですが、日本円にして３００万から８００万近くかかります。アメリカは奨学金が受けやすいとも言われますが、そう簡単にもらえるものではありません。この金額が４年間続くことを考えると、取り敢えず日本の大学へ、という気持ちになってしまいます。

しかし、最近国内の海外大学進学奨学金も充実してきました。「トビタテ JAPAN」は聞いたことがあるでしょう。校内にもポスターが掲示されています。その他に国は平成２９年３月から新たな支援制度をスタートします。月１０万円前後の奨学金と授業料２５０万円までを４年間サポートするというものです。詳細については、「独立行政法人日本学生支援機構」のホームページの募集要項を見て下さい。

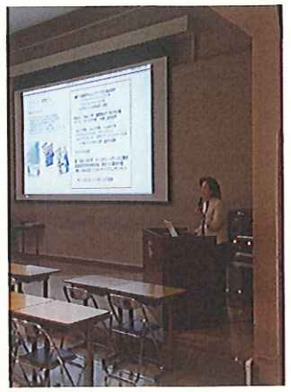
民間にもいろいろな奨学金が生まれています。詳細はまだ明らかになっていませんが、ソフトバンクの孫氏が「孫正義育英財団」を設立し、海外進学を目指す高校生を支援することになりました。既に紹介しましたが「一般財団法人柳井正財団海外奨学金プログラム」は、入学大学に条件はありますが、年７０,０００ ドルを４年間支給してくれます。（詳細についてはグローバル教育部にお尋ねください。）

このように、日本の高校生にも海外の道が徐々に開けつつあります。海外進学を考える人は、自分から積極的に奨学金制度を調べてみましょう。

なお、本校の３ヵ月留学で利用している「私立高等学校海外留学推進助成事業」の３ヵ月留学５０万円も、来年度からは５５万円になります。このことについては、「３ヵ月カナダ短期留学」のプログラムとともに、４月以降に紹介します。

海外留学・進学講演会

２月２５日に、海外進学コンサルタントの西澤めぐみ氏をお招きして「海外留学・進学講演会」を開催しました。



当日は、

1　西澤氏の自己紹介
　　留学体験から現在の仕事に至るまで
2　グローバル人材と留学
　　主体性・積極性、チャレンジ精神、異文化理解力、コミュニケーション能力、日本人としてのアイデンティティ
3　海外進学ガイダンス
　　欧米の教育システム、入学試験システム
4　高校紹介
　　安全格安、カナダの公立高校
5　大学紹介
　　ハーバードを目指すには、お薦め「リベラルアーツ」

というように、盛りだくさんのご講演となりました。

当日配布の資料が若干残っていますので、関心のある生徒はグローバル教育部まで取りに来て下さい。

ＩＳＡ「次世代リーダー養成プログラム」

毎年夏休みに、本校の高校生も参加しているＩＳＡ企画による「次世代リーダー養成プログラム」の平成２９年度版の案内が届きました。

このプログラムは、７月２１日から７月２８日まで、夏休み期間を利用してアメリカのカリフォルニア大学バークレー校のキャンパスで学ぼう、というものです。現地の大学生とディスカッションしたり、研究施設を訪問して、研究者に直接インタビューするという、とても刺激的なプログラムです。

正式な案内書は４月になりますが、関心のある生徒はグローバル教育部に問い合わせるか、直接ＩＳＡ（03-5463-7535 担当:担当　植田）に連絡して下さい。

～ 編 集 後 記 ～

本号は、本年度最終号になります。この１年を振り返ってみますと、たくさんの生徒が外に出て行ったということに、改めて感心します。国内に留まらず、海外に、それも欧米だけでなく、アジアの諸国に。また、ビジネスプログラムにも挑戦しました。グローバル教育部も生徒諸君の活力に負けないよう新しい企画を考え、紹介していきます。４月以降も楽しみにしていて下さい。